



建設業には 自分を活かせる場が きつとあります

勢羅 満子さん

MICHIKO SERA

●(株)ミヤベ 土木部 工事課 工事長



根っからの理数系 自分を活かせる 仕事を見つけた!

愛知県の工業高校で建築土木課に進まれた勢羅さん。「よく、『どうしてこの道に進んだの?』と聞かれるんですが、英語が苦手ととにかく英語の授業が少ないところを選んだら、工業高校だったという話で(笑)。高校でコースを選択するときにも、自分は数字が好きで、答えが決まっているものを計算したり、組み立てていくほうが向いていると思います、土木に進みました。根っからの理数系なんですよ。」

高校卒業後は専門学校へ、そして建設コンサルタント

会社に就職されました。その後、生まれ故郷である山口県に戻り、7年前に(株)ミヤベに入社。現在は工事長として現場監督を務められています。

『安全第一!』が 私のやりがいです

現場監督の仕事は、とにかく『安全』を守るのが一番の役目。作業する方、周辺住民の方、みんなの安全を考えていつも行動しているそう。

「人のケガはもろんですけど、周辺の敷地や道路にも影響を与えないようにと考えています。整理整頓をきちんととして、現場を綺麗に保つことも安全を守るための第一歩。休みの日でも天気予報をチェックしながら、準備する物や段取りを気にすることもありますね」仕事のやりがいも、事故がなく安全に進めばこそと勢羅さんは言います。

「自分が携わった現場が、たまたま河川の『浚渫』工事で、物の完成を見られるようなところではなかったんですよ。だから、出来上がったものを見て感動するというよりは、何事もなくひとつの仕事が終わったときに、『やった!』と思います」

周りとの協力しながら やるべきことをやる

男性中心の土木の現場ですが、



女性という立場での苦勞はないのでしょうか。

「女性だからというところで、大変だと思ったことはないです。むしろ

優しくされたり、助けてもらったり、なんだか得しているみたいで。人と協力しながら作り上げていくのが、この仕事のいいところなので『出来る事を出来る人がやる』と割り切っています。ただ、土木の仕事も幅広く、経験したことのない仕事でも皆さんに指示を出さないとイケなくて、そういう時はちよつと大変ですね。会社の先輩などに話を聞いて対応しています」

周りの方々に支えられ、見守られて、ストレスもなく毎日仕事に向かわれているそう。

「私は方向音痴なので、遠い現場には一人で辿りつけなくて。事前に会社の方に連れて行ってもらう道を覚えてるんですよ」と笑顔で話してくれました。

さまざまな

感動がある建設業に

ぜひ挑戦してほしい

最後に、これから建設業界へ進出する女性へアドバイスを頂きます

した。

「インターンシップで女の子も現場実習に来られますが、皆さんしっかりしていて『男の子より向いてるんじゃない?』と思うこともあります(笑)。実際に働いてみると、会社の中でも色々な仕事があり、自分の得意なことを活かせる場も多いのではないのでしょうか」

「昔は3Kといわれた建設業ですが、今はそんなことはないと思います。やってみたら楽しいことがたくさんありますよ。ぜひ挑戦してもらいたいです」

現在の現場である法面工事の完成を楽しみにされている勢羅さん。「出来上がった物を見られる現場は初めてなので…完成したら新たな感動があるかもしれません」と期待に胸を膨らませておられました。

さまざまな感動がある建設業。たくさんの方がこの世界で、新しい感動や魅力に出会えることを願っています。



3月に完成予定の現場